

11月で40年の東海第二原発 再稼働はとんでもない

東海村周辺自治体で「再稼働反対」が広がっています

- ・常陸太田市 3月議会で「20年延長稼働反対」を趣旨採択されました。
- ・水戸市 3月議会の総務環境委員会で「再稼働を認めない意見書」が全会一致賛成となりました。
- ・那珂市長・高萩市長・北茨城市長が「再稼働反対」を表明しています。

- ・30km圏内 14市町村のうち9市町議会在「20年延長反対」「廃炉」などの請願を採択（鉾田・大洗・城里・小美玉・茨城・笠間・高萩・常陸太田・常陸大宮）
- ・県内6割以上の市町村で「20年延長・再稼働反対」「廃炉」の意見書を可決しています。(44議会中29議会で可決)

日本原電と周辺6市村の『新協定』(2018.3.29)

「実質的に事前了解を得る」「とことん協議を継続」とは、
実質6市村長の合意がなければ再稼働出来ない。ということなので
日立市長は、市民の暮らしの安全・安心のために、20年延長再稼働にはっきりと反対を表明してほしい。

地震・津波・火山 もともと、立地に不適な 東海村の原発！！

東海第二～赤城山(群馬活火山)

迄127km 火山灰の脅威

規制委員会は赤城山噴火による火山灰堆積を50cmとして審査中です。

(水戸で堆積40cm以上の文献あり)

火山灰は1cmでもタイヤは滑り、50cmでは重みで鉄塔や家屋は倒壊するといわれています。

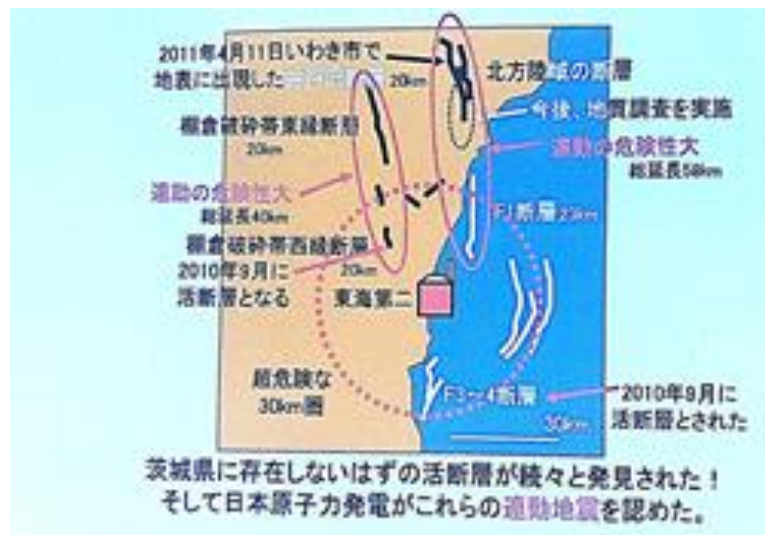
阿蘇噴火の火砕流は危険 伊方原発の運転停止

広島高裁は昨年12月、阿蘇火山から130kmにある四国電「伊方原発」は火山影響で立地不適として、運転停止(今年9月迄)を命令しました。

30km圏内に活断層、大変心配

- 東海第二から20kmに複数の活断層が発見されています。県内で地震が頻発しており連動地震での直下地震や津波が大変心配です。
- 水戸市は、大震災6弱以上の地震発生確率が日本で2番目に高い都市です。
(政府地震調査委員会)

日本原電は「連動地震」を認めています



原子力災害 避難計画

日立市民 → 福島県へ？

避難は過酷、早く廃炉に！！

日立市の原子力災害「広域避難計画(素案)概要」説明会が 2~3 月に市内交流センター23ヶ所で開かれました。参加住民

から沢山の意見が出され、当初3月の避難計画作成予定が、本年度末(2019年3月末)に延期となりました。

「単独災害」でも、まして「複合災害」では避難できるわけありません

朝・夜・雨天・雪・台風
地震・福島原発事故・・・

住民説明会でのご意見要望

- なぜ原発事故の福島に避難、行きたくない
 - 高齢者の自家用車避難は時間かかり不安
 - ペットをつれて行けますか
 - 事故時南風の場合、放射能から逃げられますか
 - 日立市は溪谷が多く、橋が陥没したら避難出来なくなる
 - 原発は稼働してなくても危険、再稼働には反対です。
- 等等

日立市民 18万人は、福島県の17市町村に常磐自動車道を使って避難ということですが、可能でしょうか。日立市は山と海に挟まれており、日常的に交通渋滞が起きています。2011年3月の大震災では、ライフラインが止まり大変な体験をし、今回計画では、そのうえ車で福島県に避難です。地震による道路陥没や信号停止等で通行不能、大渋滞になるのは明らかです。また、5km圏内は直ちに避難、5km以北は屋内退避し1週間余かけて避難ですが、壊れた建物の屋内では被曝は避けられません。福島避難が現実になれば日立市は消滅です。そうしないために、東海第二原発は11月の40年法定寿命どおり廃炉にする以外ありません。



日立市民は
福島県へ避難
(広域避難計画)



原発事故でお祭り消える...

「いわき市の広域避難計画」

避難先は茨城県

東電福島原発の過酷事故を想定した、いわき市民避難先は、福島西・新潟県それに茨城県(日立市含む)となっています。複合災害(福島原発と東海第二の同時事故)になった時、両市民の避難先はどうなるのでしょうか、大混乱は必至です。

2018年6月 「東海第二原発再稼働ストップ

日立市民の会」ニューサー7

連絡先 日立市台原町 2-10-10

荒川照明 携帯 090-9845-7019